

Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第166回

公益社団法人
家庭問題情報センター

はら ち え こ
原 千枝子

「子はかすがい」というけれど……

春美（仮名）さんは一年前に、当時小学二年の長男を連れて夫と別居し、知人を介して離婚の話し合いをしています。春美さんによると、離婚を決意した理由は夫のモラハラです。なかなか離婚にに応じてくれなかった夫が、子どもと定期的に会わせてくれれば応じてもいいと言いついたことから、親子交流を実施し始めましたが、その際の子どもの言動に不安を感じ、来談されました。

春（春美）

子どもは、別居してしばらくの間は、父親のことを話題にするのを嫌がり「僕にパパのことは聞かないで」と言って耳をふさいでいました。

カ（カウンセラー）

それはどうしてだと思えますか？

春

同居中、夫から怒られた私が泣いているのを見ていたからだと思います。

カ

お子さんの目の前で、あなたを怒っていたということですか？

春

私は、十代の終わり頃から精神的な病気ですと薬を飲んでいますが、そのため家事が十分にできないのです。病気のことは夫も理解してくれていたのですが、子どもが保育園の年長になった頃から、料理や掃除、洗濯のことをうるさく言うようになったのです。私だって家

事が十分にできないことが辛いのに、夫は頭ごなしに怒鳴り、私が謝るまで三十分でも四十分でも怒り続けていました。毎日、夫を怒らせないように緊張して暮らしていたのです。

カ それはお辛かったですよね。あなたが怒られているとき、お子さんは？

春 あっ、子どものことでしたね。夫は、さすがに子どもが見ている前で怒ることはなかったのですが、狭い家ですからどうしても聞こえます。子どもは夫が怒り始めると、隣の部屋の隅で耳をふさいでうずくまっていました。そういう子ども

カ

の姿を見て、私もさらに辛くなり別居を

カ

決意したのです。

カ

別居することについて、お子さんには

カ

どう説明されましたか？

春

「ママは、パパから怒られるのが辛いからもうパパとは暮らせない」と伝えました。子どもは、家を出るときは「ずっと三人で暮らしたい」と言っていたのですが、すぐにあきらめてそれ以上、理由を聞くことはありませんでした。

カ

物分かりがよいお子さんですね？

春

はい。とてもいい子なんです。別居してから、もう私が泣くようなこともないし、穏やかに生活しているので、子どもも理解してくれているのだと思っています。

カ

父親との交流については？

春

間に入ってくれている人から、離婚と、子どもと父親の関係を切り離して考えなければいけないと言われましたし、離れて暮らす親子の交流の必要性に



ついで勉強もしました。交流させなければ離婚に応じてくれないということなので嫌でしたが、仕方なく応じることにしました。

カ 子どもにとって交流が大事なことでと理解されたのですね。ところで、お子さんにとってはどういう父親だと思われるですか？

春 理詰めでしつこい感じですが、それなりに気遣ってくれる父親だと思います。パパと会うことについて、お子さんの反応はどうでしたか？

春 私が聞いたら拒否するだろうと思いい間に入ってくれている人と相談して、その方から聞いてもらいました。子どもは、ママと一緒に会ってもよいとのことでした。私は怖かったのですが、人目のあるところで遠くから見ていることにして、会わせることにしました。

カ 交流の際、お子さんはどんな様子でしたか？

春 最初はちょっとぎこちなくて、遠くにいる私をチラチラ見ていましたが、すぐにはしゃぎ始め、楽しそうでした。ただ、二時間の予定が三時間になってしまい、別れる際に子どもが三人で食事がしたいと言いつつ、その場の成り行きで断れませんでした。子どもは楽しそうでしたが、私は疲れ果て、翌々日まで家事が十分にできず、薬の量も増えてしまいました。それは大変でしたね。その後は？

カ 結局、月に一回、昼食をはさんで三時

間と決め、二回目の交流をすることになりました。私は遠くから見守るのも、かなり大変なことなので送り迎えだけにし、子どもにもそう伝えて送り出したのです。ところが、迎えに行ったとき、子どもが「おなかすいた。回転寿司に行きたい」と言い出したのです。夫に聞いたら、少し前にうどんを食べたとのことでした。元々わがままを言う子ではないし、別居してから聞き分けの良い子だったのです。が、その時はかなりごねて大変でした。

カ うーん、どうしてかしら？

春 おなか一杯のはずなのに、三人で食事をすれば元に戻るのではないかと思ったのでしようね。その時は困惑してしまいました。今、子どもの気持ちを思うと胸が痛みます。

カ 健気なお子さんですね。あなたには元に戻るという選択肢はありませんか？

春 一大決心をして別居しましたし、離婚しか考えられません。夫と会うだけで、具合が悪くなってしまうのです。

カ だとすると、どうしたらよいと思われるですか？

春 子どもに期待を持たせてはいけないうすよね。そういうえば以前、子どもに名前を付けたときの話をしたことがあるのですが、交流が始まってから時々、その話をしてと、ねだることがあります。

カ それは、お子さんにとって大事なエピソードなのですね。

春 そうかもしれません。夫と二人で考え

て名付けたという話です。子どもは、復縁を願っているのですよね。

カ でもそれは、ママを苦しめることになることもわかっているのでしようね。

春 そうだと思えます。子どもに「パパとママと一緒に暮らせないけど、あなたが生まれたときからずっと愛しているし、それは変わらないよ」と改めて話してみたいと思います。

カ とつても大事なことです。気遣いできるお子さんだから、きっとわかってくれるでしょう。

春 はい。泣かれるかもしれませんが、きちんと向き合ってみます。交流のことも「パパとの大切な時間だから、ママの心配はしないでいいよ」と伝えてみます。

子どもにとって、父母と仲良く一緒に暮らせることが一番なことは、言うまでもありません。紛争に巻き込むことになるからと曖昧な説明しきしないで行くと、子どもは復縁を期待して仲を取り持とうとしたりすることがあります。

しかし、それがかなわなかったときの子どもの絶望感は計り知れません。元には戻れないが、父母ともに子どもを愛していること、それは離婚しても変わらないことを子どもにきちんと伝えることが、親としての大切な役割ではないでしょうか。

